

EU Indicators

欧州経済指標コメント：ユーロ圏の銀行貸出調査

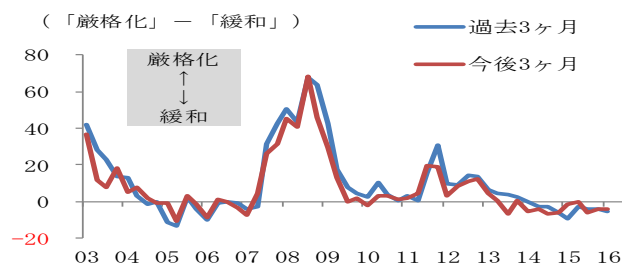
発表日：2016年4月20日(水)

～マイナス金利の副作用も～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

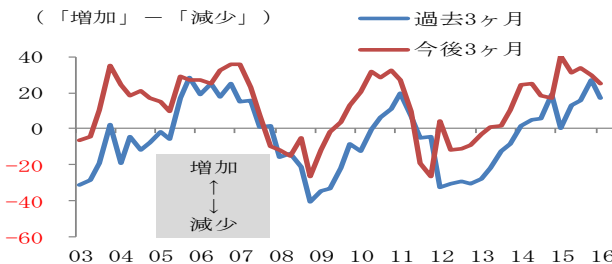
- 第1四半期のユーロ圏の銀行貸出調査（19日発表、調査時期は3月11日～30日）では、企業の資金需要の増加ペースがやや鈍化するなか、ドイツの銀行が大企業向けの融資基準を一段と緩和したほか、イタリアの銀行が大幅な基準の緩和を続けたことが確認。他方、低金利による家計の住宅ローン需要が高まっており、ドイツやオランダの銀行が住宅ローン向け融資基準を厳格化した様子が窺える。今年3月までに国内法制化が必要なEUの住宅ローン審査指令が基準厳格化につながった側面もある。
- 企業向け融資判断の詳細は、過去3ヶ月の企業向け融資基準判断（「厳格化」と「緩和」の回答の差、マイナスが緩和超）が前回：▲4→今回：▲6と緩和超の割合が増した。国別にはドイツ、企業規模別には大企業向けが改善を牽引した。融資基準判断に影響した要因を尋ねた設問では、「他行との競争激化」と回答した割合が増加。また、向こう3ヶ月の企業向け融資基準は▲4→▲4と前回調査並みの緩和超が続くことが見込まれている。他方、過去3ヶ月の企業の資金需要（「増加」と「減少」の回答の差、プラスが増加超）は、9調査連続で増加超を記録したものの、増加超幅は+27→+17に縮小した。国別にはドイツとスペインが、企業規模別には中小企業向けが、増加超幅縮小の主因。また、向こう3ヶ月の企業向け資金需要判断も高水準ながら+29→+25に縮小。年明け以降の金融市場の動揺や世界景気の先行き不透明感が企業の資金需要を下押しした可能性がある。
- 不定期の調査項目の中では、ECBが預金ファシリティ金利をマイナスにしたことで、純利子収入が減少すると回答した銀行の割合が81%に上り、企業向け/住宅ローン向け/消費者信用向けの貸出金利を引き上げると回答した割合が各々2%、手数料を引き上げると回答した割合が各々11～12%いた。欧州銀の間でもマイナス預金金利政策の副作用が少なからず広がっている様子が窺える。

■ユーロ圏の銀行融資基準



出所：欧州中央銀行

■ユーロ圏企業の資金需要



出所：欧州中央銀行

■ユーロ圏の銀行貸出調査

			2013				2014				2015				2016
			1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
融資基準	企業全体	過去3ヶ月	6	5	4	2	-0	-3	-3	-6	-10	-3	-4	-4	-6
		今後3ヶ月	5	0	-7	0	-5	-4	-7	-6	-1	-0	-6	-4	-4
	中小企業	過去3ヶ月	5	7	2	-3	0	-5	0	-7	-9	-4	-5	-5	-6
		今後3ヶ月	3	2	5	2	-4	-5	-5	-6	-6	-3	-1	-2	-8
住宅ローン	過去3ヶ月	17	7	1	-1	-4	-4	-2	-4	2	-9	5	-7	4	
	今後3ヶ月	-28	-22	-12	-9	2	5	6	19	1	13	16	27	17	
資金需要	企業全体	過去3ヶ月	-3	1	2	10	24	25	19	17	40	31	34	29	25

注：融資基準は「厳格化」－「緩和」と回答した割合の差。資金需要は「増加」－「減少」の差。出所：欧州中央銀行

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。